

加工業者と一丸となって消費者の多様なニーズに応じていく！



(関東地方 ・ ねぎ ・ (株) TOSIファーム)

事業実施主体の概要

【地域】 埼玉県北部地域

【対象品目】 ねぎ

【事業対象面積】 約40ha

【目標】 事業5年目の単収を、30%以上向上する。

事業参加の経緯・背景

【参加経緯】 平成23年より長ねぎ・青ねぎのみを栽培し、カットねぎの加工原料として、親会社に出荷してきた。事業参加当時、中国産から国産に切り替える外食・中食事業者が多く、そのようなユーザーを持つ親会社からの要請を受け、加工用ねぎの生産により力を入れることとなった。

【課題】 これまで中国産を扱っていた加工業者・実需者からは、国産品に対しても安定供給と低価格を求められ、これを実現する必要があった。

産地での取組

【生産・流通の構造改革の取組】

- ・ 5～7月の出荷に向けて冬季に保温資材の導入と作業人員を配置し、国産品薄時の栽培を強化
- ・ 種苗メーカーと情報交換して、地域に適した品種を選定
- ・ 生産コストで最もウエイトを占める除草作業の機械化による人件費の低減
- ・ 定植、弓打ち、土上げ、収穫等の生産工程の機械化による生産コスト低減
- ・ 栽培履歴フォーマットや他社の青果記帳システムの使用によるトレーサビリティの向上

【作柄安定のための取組】

- ・ プラウ耕の実施による、ねぎの生育に適した土壌の改善
- ・ 発根活着剤の使用や育苗時の土質改善による、収量アップと品質の向上
- ・ 緑肥の使用による、連作障害の回避と病害虫の防除

事業参加による産地の変化と今後の展開

【目標達成状況・取組効果】

- ・ 単収：3300kg/10a(25年度)→3627kg/10a(29年度)(約10%増加)
- ・ 実需者ニーズに応じ、栽培面積の拡大に取り組み、契約面積も増加。(1年目40.3ha→3年目46.0ha)
- ・ 冬季の保温資材導入による国産品薄時の栽培強化や、作柄安定の取組により、安定生産を実現。

【今後の課題・改善策】

- ・ 人手不足への対応
→除草、定植など人手のかかる作業の機械化

【今後の取組・展開】

- ・ 加工用ねぎの国産志向の高まりに応じ、単収の向上や栽培面積の拡大により出荷数量の増加を目指す。
- ・ 種苗会社と密に情報交換して、土地や気候に適した品種を選定する。

生産・流通の構造改革の取組（C：実需者が要望する品種の選定）

作柄安定のための取組（d：輪作作物として緑肥を導入）



生産・流通の構造改革の取組（C：実需者ニーズに即した出荷規格に選別）

TOSIファームからのコメント



外食・中食産業での国産ねぎの需要が、今後も高まっていくと予想される中で、生産ほ場や集荷・選別所のほか、親会社の加工工場や冷蔵保管庫も近隣に配し、変化を続ける実需者ニーズへの対応力・即応力が、当社の強みです。

本制度で受け取った補助金は、弓打ち機、サブソイラー、定植機等の栽培関連機械の拡充に充て、栽培部分でのコスト削減に注力しています。

本制度参加による副次的な効果として、明確な目標を設定したことにより、従業員が目標達成に向けて、一丸となって業務に取り組むようになり、生産性が向上しました。

今後は、GAP取得等にも積極的に取り組み、安心・安全で安定的な供給を、更に追求していきます。



TOSIファームの皆様

大規模農場の整備と将来の担い手の育成に向けて！



(四国地方 ・ キャベツ ・ 農事組合法人たいよう農園)

事業実施主体の概要

【地 域】 愛媛県南予地域

【対象品目】 キャベツ

【事業対象面積】 約70ha

【目 標】 事業5年目の契約取引数量を、3倍以上にする。

事業参加の経緯・背景

【参加経緯】 奨励作物だった葉タバコの生産がタバコ需要の減少を受け衰退し、農家の高齢化も重なって、廃業が進み、耕作放棄地が増加していた。

【課 題】 耕作されなくなった広大な土地の赤粘土質の土壌を改良し、葉タバコに代わる新たな農産物の産地化を図るとともに、農業の将来の担い手を育成することが課題となっていた。

産地での取組

【生産・流通の構造改革の取組】

- ・ 実需者の要望に応じた品種の栽培
- ・ 国内トップレベル農機複数台導入による生産効率化とコスト削減
- ・ 鉄コンテナやプラスチックコンテナ導入による流通コストの削減
- ・ 農業管理ソフトやクラウドシステムの活用による情報の共有化
- ・ スマートフォンやSNSの活用による情報アクセスの即応性向上

【作柄安定のための取組】

- ・ 各ほ場の傾斜や水流等の状態を慎重に考慮した高畝式栽培
- ・ 発根活着剤の使用による連作障害予防
- ・ 堆肥の使用や土の攪拌による土壌改良

【特色のある取組】

- ・ 農機や肥料や農薬の一括購入によるコスト削減
- ・ インターンシップの実施や寮の整備による新卒者の積極的採用
- ・ 全従業員での課題の発見と意見を反映させる職場風土の醸成
- ・ 自社トラックへの広告による新規取引先の確保
- ・ 保冷車や冷蔵庫の使用によるコールドチェーン化

事業参加による産地の変化と今後の展開

【目標達成状況・取組効果】

- ・ 取組1年目の平成27年度に、事業当初の取引量の4倍程度に増加
- ・ 2年目以降も目標契約取引数量を超えた実績を維持
- ・ 土壌や苗の活着状況の良好化
- ・ 若手従業員の増加による農業の担い手の確保と地域の活性化

【今後の課題・改善策】


- ・ 加工品に利用できない大量の残渣処理
→ 商品として有効に活用できないかの研究の継続
- ・ キャベツ以外の品目への取組強化
→ たまねぎや人参等、既に加工品として取扱実績のある品目での事業参入の検討
- ・ ほ場の造成や管理について蓄積したノウハウの継承
→ マニュアル等の形に整理して蓄積・共有

【今後の取組・展開】

取引先等から他品目生産の取組強化や、県外での展開の要望を受け、積極的な業務拡大を図る。

生産・流通の構造改革の取組 (e: コンテナでの出荷)



生産・流通の構造改革の取組 (d: 定植作業の機械化) 



作柄安定のための取組 a (高畝栽培), d (堆肥の施用: 上は施肥前、下は後)



たいよう農園からのコメント



代表理事 本田和也氏

当事業の補助金は、ストーンクラッシャーをはじめとした大型農機のほか、農薬や肥料、梱包資材の購入等、加工・業務用キャベツの安定供給に向けた取組に活用しています。特に農機は、繁忙期に1日中フル稼働させるので、日常的なメンテナンスと丁寧な使用を心がけ、農機の長期利用に努めています。

当事業の運営管理においては、応募時を初めとして、各種書類や資料の準備が必要となるので、提出期限を意識して、適切に処理していくことが重要です。

今後は、育成した従業員を県外に派遣することも視野に入れており、社訓の1つである「国を耕す会社」を実現すべく、全国各地での事業展開を目指しています。

生産者・実需者が共に喜べる加工レタス産地作りを目指して！！



(九州地方 ・ レタス ・ 福岡京築農業協同組合)

事業実施主体の概要

【地 域】 福岡県京築地域

【対象品目】 レタス

【事業対象面積】 約 15ha

【目 標】 事業5年目の契約取引数量を、約30%増加させる。

事業参加の経緯・背景

【参加経緯】 13年前より加工・業務用の出荷としてレタスの契約取引を経営の柱にすべく取り組んでいるが、関東向けの契約単価が当初よりも大きく値下げされ、経営を圧迫。

【課 題】 当産地は玉レタス作付け占有率が県内1位（平成26年度：JA別生産状況表より）であり、戸別経営の安定・販売力の強化により産地を維持する必要。
⇒①1戸当たり収量の個人間格差の高位平準化、
②契約単価の低迷からの回復、③流通コストの低減

産地での取組

【生産・流通の構造改革の取組】

- ・定植機を有効活用し、生産コストの大半を占める労働コストを削減
- ・通いコンテナを利用し、流通コストを削減
- ・問題発生時に素早く対応すべく、コンテナごとに産地・生産者名の札を貼り付け

【作柄安定のための取組】

- ・土壌改良材の施用により、生育に適した土壌酸度（pH6～6.5）に改善し、作柄を安定
- ・高畝栽培により過湿を避け、収量・品質向上
- ・地温保持安定のため、全面マルチ栽培を行い、収量・品質向上

【特色のある取組】

- ・低コスト肥料の投入により生産コストを低減
- ・収穫後の鮮度保持のため、噴霧機による切り口洗浄を実施
- ・生産者と実需者との懇談の場※を設け、お互いの意識を共有。
（※レタス部会出荷協議会等への参加やほ場の巡回等）

事業参加による産地の変化と今後の展開

【目標達成状況・取組効果】

- ・契約取引数量：259t(25年度) → 363t(29年度)(約40%増)
- ・近年大きく変化する気候に対し、苦労しながらも当初の計画通りの契約数量を出荷
- ・「亜リン酸肥料」散布による健苗育成と予防防除の徹底により商品化率向上や、実需者ニーズに合ったレタス品質の安定を実現

【今後の課題・改善策】

- ・ほ場準備・定植時期の長雨の影響により、出荷の一部に支障を来した
→ 異常気象に対応できる作付計画の確立（休耕田の利用等）
- ・長年栽培していた厳寒期品種の種子販売の中止
→ 有望新品种を導入し、当該品種の商品化率を向上

【今後の取組・展開】


- ・休耕田の有効利用等、無理のない作付計画の実施
- ・異常気象にも対応できる早めの作業準備
- ・実需者から要望される安定した数量・品質の保持のための品種選定
- ・関係機関一体となった巡回指導体制の確立
- ・生産者と実需者の懇談の場所を継続し、率直な意見・情報交換を行い、生産基盤の強化を図る。

生産・流通の構造改革の取組
(c: 実需者ニーズに即した加工向け大玉レタスの生産)



作柄安定のための取組 (a: 高畝栽培、c: マルチ栽培)



生産・流通の構造改革の取組
(e: 通いコンテナの導入、f: コンテナごとに生産者名表示 (トレサ)) 



福岡京築農業協同組合からのコメント



福岡京築農協、生産者、
ふくおか園芸農業振興協会、
普及指導センターの皆様

福岡京築農業協同組合の加工業務用レタス生産は、中間業者、実需者、生産者がウィン・ウィンの関係を目指し、“取引”ではなくお互いが思いやれる“取組”としたいと考えています。

また、現地巡回に力を入れており、生産者と積極的にコミュニケーションをとること、異常気象等の問題が起きればすぐに生産者を集め意識の共有を図り、近年の異常気象の中、契約数量を40%も伸ばすことに成功しています。契約数量を常に確保しなければならないという状況の中、当事業の利用により、生産者の方々への支援になり、大変助かっています。

当地域では、最近では若手の生産者の方が徐々に増え、戸当たりの面積も増えており、今後一人でも多く「食べるレタス生産者」が増えていけば、と考えています。

第7 事業の実施基準

○1 生産・流通の構造改革の取組

事業実施主体は、次に掲げる全ての対策について、取組期間中、事業対象面積の全域において取り組むものとする。

- (1) 加工・業務用ほ場の設定 (a)
加工・業務用に出荷することを目的として対象品目の栽培を行う専用ほ場の設定を行う。
- (2) 一定期間の事前契約の締結 (b)
対象契約の締結を、実需者等に対し出荷を開始する前までに、当該地域における対象品目の平均的な出荷期間からみて適当な期間について行う。
- (3) 実需者ニーズに即した生産・出荷 (c)
加工用品種の導入など、実需者等の求めに応じた生産又は出荷を行う。
- (4) 生産コストの低減 (d)
収穫機の導入など、生産コストの低減や省力化に資する取組を行う。
- (5) 流通コストの低減 (e)
大型コンテナの導入など、流通コストの低減や調製作業の合理化に資する取組を行う。
- (6) トレーサビリティシステム等の導入 (f)
対象品目について、その生産地等が事業実施主体の個々の構成員まで明らかにできる取組を行う。

○2 作柄安定のための取組

事業実施主体は、次に掲げる対策について、事業の取組期間の1年目にあっては3つ以上、2年目にあっては2つ以上、3年目にあっては1つ以上を、事業対象面積の全域において取り組むものとする。

- (1) 土層改良・排水対策 (a)
天地返し、暗きょ施工等による排水性向上対策など、ほ場条件の改善に有効な対策を行う。
- (2) 病害虫防除・連作障害回避対策 (b)
土壌消毒など、病害虫防除や生育初期の生育促進等に有効な対策を行う。
- (3) 地温安定・保水・風害対策 (c)
不織布の敷設など、高温・低温、干ばつ、風害等の被害抑制等に有効な対策を行う。
- (4) 土壌改良資材施用 (d)
土壌の排水性や保水性の回復など、出荷量回復・安定等に有効な資材の施用を行う。

第9 成果目標

1 目標年度

本事業の目標年度は、採択された年度の前年度から起算して5年後とする。

2 成果目標

事業実施主体は、本事業の成果目標として、対象品目について、次に掲げるものの中からいずれか一つを選択し、設定するものとする。

(1) 10アール当たりの収穫量の増加

現状の10アール当たりの収穫量（初めて当該品目を生産する場合にあっては、全国又は当該事業実施主体が所在する都道府県の現状の10アール当たりの収穫量）に比べて、目標年度に10%以上増加する目標を設定するものとする。

(2) 10アール当たりの生産又は流通コストの削減

現状の10アール当たりの生産又は流通コスト（初めて当該品目を生産する場合にあっては、全国又は当該事業実施主体が所在する都道府県の現状の10アール当たりの生産又は流通コスト）に比べて、目標年度に10%以上削減する目標を設定するものとする。

(3) 契約取引数量の増加

現状の契約取引数量と比べて、10%以上増加する目標を設定するものとする。ただし、この目標を設定する場合は、輸入品の代替等であり既存国内産地からの置換えではないことを要件とする。

※平成28年度採択までは、上記3指標からの選択